

第3次千葉県生涯大学校マスタープラン（案）の概要

I 第3次千葉県生涯大学校マスタープランの策定

・策定の趣旨

超高齢社会を迎える中、生涯大学校がより多くの高齢者にとって魅力ある学びの場となり、地域社会での活躍につながるものとなることを目指す。

・計画期間 令和6年度から令和10年度まで（5年間）

II 生涯大学校のあり方

1 高齢社会における高齢者の役割

- ・ 活力ある地域社会づくりのため、経験と知識を持つ高齢者の力を活かす必要
- ・ 地域共生社会の実現に向け、高齢者自身が「支える側」としても活躍できるよう、地域で役割をもつことが重要

2 生涯大学校の果たすべき役割

- (1) 地域活動の担い手育成 =生涯大学校の目的として特に重点を置く=
- (2) 生きがい・健康・仲間づくりの支援
- (3) 市町村や民間事業者等と連携・役割分担した学習・活動の場の創出

III 学習の目標・学習カリキュラム等

1 学習の目標

- (1) 健康で自分らしい生活を送るための知識やスキルの習得
- (2) 地域活動につながる知識や技能の習得
- (3) 仲間とともに活動するノウハウの習得

2 学習カリキュラム

(1) 基礎科目の設置

全ての学部・コースにおいて、卒業後の地域活動や学生の健康づくりなどにつながるものとするため、全学生が学ぶ共通の課程（基礎科目）を設置

《基礎科目の内容》

- ・ 単位数…全体（148単位）の1/3（50単位）程度
- ・ 内容…地域活動・ボランティア、防災対策、健康づくり（運動、食生活など）、県の施策（主要施策、高齢者施策、地域活性化施策）、千葉県の郷土史、ICTの基礎 等

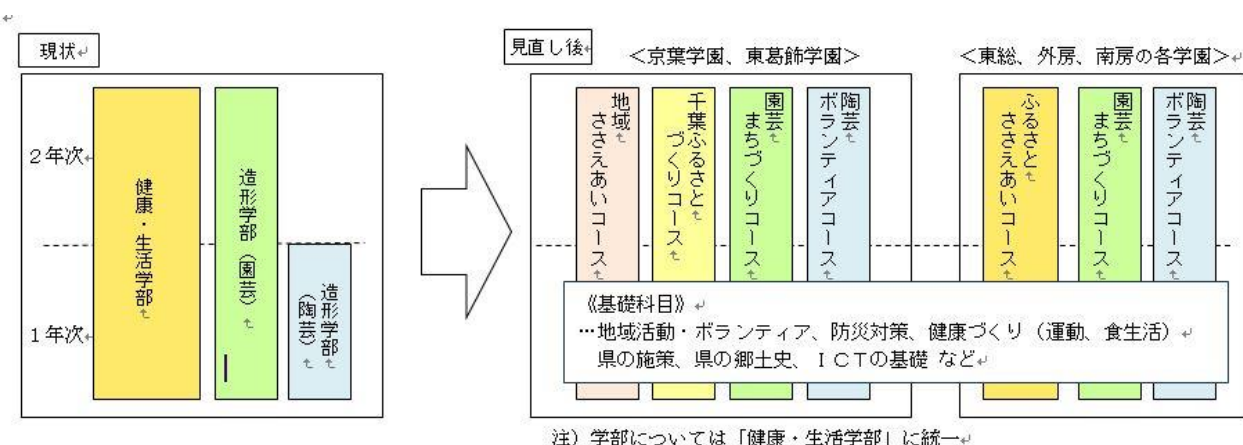
(2) 設置コースの再編

学生の能力や意欲、得意分野を活かした形での社会参加につながるよう、主に地域福祉分野を学ぶ「地域ささえあいコース」と、観光・歴史・自然環境保全等の分野を学ぶ「千葉ふるさとづくりコース」を設置（京葉学園、東葛飾学園）

(※ 東総、外房、南房の3学園は、地域ささえあいコースと千葉ふるさとづくりコースの内容を兼ね備えた「ふるさとささえあいコース」を設置)

(3) 学部・定員等

- ・ 現在、「健康・生活学部」と「造形学部」の2学部に分かれているところ、「健康・生活学部」に統一
- ・ 入学時の定員（各学園ごとの入学定員及び5学園合計の入学定員）は現行どおり（※陶芸ボランティアコースの2年制化に伴い、総定員は増加）
- ・ 入学資格は、現プランでは原則60歳以上（条件付きで55歳以上も可）としているところ、特に条件を付さずに「55歳以上」とする



IV 地域における活躍の促進

1 市町村・地域活動団体等との連携・協働

- ・ 市町村や地域の団体（社会福祉協議会やボランティアセンターなど）との連携を強化し、地域のニーズに係る情報を各学園に提供
- ・ 在学中から地域活動団体との交流やボランティア体験を実施

2 コーディネーターの役割強化

- ・ 各学園に地域活動コーディネーターを配置し、地域課題の情報を収集、提供
- ・ 関係団体の意見交換や、コーディネーター相互の連携強化により好事例を横展開

3 卒業生組織との連携

- ・ 地域でさまざまな活動を実施している卒業生団体と連携し、活動先の情報収集や情報提供を実施

4 大学等教育研究機関との連携

- ・ 県内の大学等と連携による、多彩な講師派遣や大学生との異世代交流を実施

5 地域との交流の促進

- ・ オープンキャンパスや体験教室、即売会などを通じ、地域交流拠点として学生の学びを地域に還元

6 その他運営体制の強化

- ・ 学生や卒業生が実施している活動の情報を積極的に発信